

# 共通科目

リハビリテーション医学専攻

【科目名】 リハビリテーション医学総論Ⅰ（内科・神経内科）		【担当教員】 若杉 裕	
【授業区分】 共通科目	【授業コード】 a101	（メールアドレス） mais.que.nada@kvf.biglobe.ne.jp （オフィスアワー）講義後に対応する	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択		
【単位数】 1	【コマ数】 8		
<p>【注意事項】</p> <p>（受講者に関わる情報・履修条件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科での履修は、リハビリテーション医療方法を発展させ、さらに新しい方法開拓につながるものでなければならない。</li> <li>・対象とするヒトの病態の特徴を把握し、リハビリテーション医療における問題点を併せて明らかにすることができれば幸いである。</li> </ul> <p>（受講のルールに関わる情報・予備知識）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療は患者を中心とするものである。患者がもつ問題点を解決すべく履修してほしい。過大な情報からの継ぎ接ぎのような論文を作ってはならない。</li> </ul>			
<p>【講義概要】</p> <p>（目的）</p> <p>生命とは何かを考える。誰も「正しい答え」というものは持ち合わせない。従って誰でも自由に考えて良い。当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p> <p>（方法）</p> <p>生命について「考えてみたこと」「感動したこと」をレポートしてください。 試験・レポートのフィードバック方法：コメントを付して返却する。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>医学は科学が基本である、という原則を理解する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>科学は化学・物理学・数学と多岐に渡るが、医学の場合ごく基本的な知識を持っていれば良い。感情理解などの文系的医療も必要である。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>指定しない。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>①「新型コロナ7つの謎 最新免疫学からわかった病原体の正体」講談社 宮坂 昌之(著) ②放送大学テキスト 放送大学振興会</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>（評価の基準・方法）</p> <p>成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPA制度に関する規程に従う。レポート100%で評価を行う。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	新型コロナウイルス感染症	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分
2	発酵	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分
3	腸の働き	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分
4	五大栄養素 微量元素	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分
5	生活習慣病	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分
6	うつ病	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分
7	認知症	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分
8	生物の進化	講義	講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。	220分

【科目名】	リハビリテーション医学総論Ⅱ（外科・整形外科）		【担当教員】	高橋 明美
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a 102	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a_takatashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月-金：9：00-18：00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
授業は講義形式で行う。また、講義で教授した内容についてはレポートにまとめ提出する。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
特記なし				
【講義概要】				
(目的)				
近年のリハビリテーションの重要な役割は、「障害の予防」である。外科・整形外科分野においては「骨・関節・脊髄の痛みによる活動性の低下の予防」「運動器疾患対策の推進」が課題となっている。また、外科分野においては、がん医療推進に伴うがん患者のリハビリテーションが重要課題となっている。				
学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う				
(方法)				
トピックス的な内容も含めて教授し、医療や介護分野における運動器リハビリテーションについての理解を深める。				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーション医療の中で、運動器リハビリテーションの対象となる疾患や症状、リハビリテーションの方法を理解する。また、医療や介護分野における運動器リハビリテーションの役割について学ぶことで、「障害の予防」に対する理解を深める。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年のリハビリテーションの役割について説明できる</li> <li>・運動器リハビリテーションの意義について説明できる</li> <li>・各種運動器疾患のリハビリテーションについて説明できる</li> </ul>				
【教科書・リザーブドブック】				
プリントを配布する				
【参考書】				
その都度紹介する				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーションの変遷 —近年のリハビリテーションの課題と方向性 障害の発生予防に視点を置いたリハビリテーションをどのように展開していくか	講義	配布講義資料を復習	30
2	運動器リハビリテーション① □ ロコモティブシンドロームに視点を置いたリハビリテーションの展開	講義	ロコモについて準備学習 配布講義資料を復習	30
3	運動器リハビリテーション② 「ロコモ」「サルコペニア」「虚弱」との関係について	講義	サルコペニアについて準備学習。配布講義資料を復習	30
4	身体的虚弱 (Frailty) に対するリハビリテーション□ Frailtyの構造とリハビリテーション (評価から治療、予防まで)	講義	フレイルについて準備学習 配布講義資料を復習	30
5	骨・関節疾患のリハビリテーション 関節リウマチや変形性関節症に代表される骨関節疾患の病態からリハビリテーション	講義	骨関節疾患について準備学習 配布講義資料を復習	30
6	疼痛のリハビリテーション □ 種々の運動器疾患に伴う疼痛に対する評価から治療—CRPSとの関連	講義	疼痛について準備学習 配布講義資料を復習	30
7	脊椎疾患のリハビリテーション 腰椎椎間板ヘルニアや頸椎症に代表される脊椎疾患の病態からリハビリテーション	講義	脊椎疾患について準備学習 配布講義資料を復習	30
8	がん患者のリハビリテーション がん患者の問題となる廃用症候群の予防からQOL向上まで	講義	がんリハについて準備学習 配布講義資料を復習	30

【科目名】	研究方法論		【担当教員】	山村 健介、八木 稔
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	A 104	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	山村 : yamamurak@dent.niigata-u.ac.jp 八木 : yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 授業終了後に教室で質問を受付ける
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 全回の聴講を希望する 初回講義後、次回講義までに準備すべき学習課題を提示する				
【講義概要】				
(目的) 学位授与の方針と当該授業科目の関連：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う				
(方法) 山村：これから学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、無理のない実験計画を立てるために必要な知識をディスカッションを交えながら解説します。 八木：統計学をベースにした研究の特徴と考え方について講義する。レポートについては、提出後に解説するか、あるいはコメントを付けて返却します。				
【一般教育目標(GIO)】 山村：研究の基本的な進め方を身につけるため、研究に必要な基礎知識を理解する。 八木：研究における統計学の考え方と方法を具体的に理解する。				
【行動目標(SB0)】 研究とは何かを理解する。研究の方法には種々のものがあるので、それぞれについての特徴を知る。 学術論文の構成を理解する。アイデアと仮説の違いを説明できる。 仮説に基づいて実験計画をたてることができる。仮説に基づき統計学的な考え方と方法に従って研究計画を立てることができる。				
【教科書・リザーブドブック】 山村：プリントを配付する。 八木：授業の内容に応じた資料を配付する。				
【参考書】 山村：随時説明する。 八木：随時説明する。				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 受講時のパフォーマンス50%、レポート50%の割合で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価指標	取り込む力・知識			50	50				100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	データあるいは変数の尺度とその分類について講義する。観察研究、分析研究(コホート研究、症例対象研究)および介入研究、それぞれの特徴と考え方について講義する。講義に関するレポートを課す。	講義(八木)	予習：量的及び質的な尺度について調べておく。左記3つの研究様式(観察・分析・介入研究)について調べておく。復習：課題を解きレポートとして提出する。	220
2	前回の講義内容の確認(前回レポートの解説を含む)統計的検定(I)カイ二乗検定およびフィッシャーの確率検定、オッズ比、および相対危険度について講義と演習を行う。講義に関するレポートを課す。	講義と演習(八木)	予習：カイ二乗検定について調べておくこと。復習：課題を解きレポートとして提出すること。	220
3	前回の講義内容の確認(前回レポートの解説を含む)統計的検定(II) t検定および分散分析について講義と演習を行う。講義に関するレポートを課す。	講義と演習(八木)	予習：平均と標準偏差について調べておくこと。復習：課題を解きレポートとして提出すること。	220
4	前回の講義内容の確認(前回レポートの解説を含む)相関と回帰 相関係数、相関と因果、および回帰分析について講義と演習を行う。講義に関するレポートを課す。	講義と演習(八木)	予習：相関と回帰の基本的な知識について調べておくこと。復習：課題を解きレポートとして提出すること。	220
5	科学的な研究方法とは－研究の種類 学術論文の構成	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：各自の研究テーマを考えておくこと。 事後の展開：各自の研究テーマにあった総説論文、原著論文を1編ずつ探すこと。	220
6	アイデアと研究仮説の違い 仮説の立て方	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：上記の原著論文を一読しておくこと。 事後の展開：各自の研究テーマについて総説論文の情報を活用しながら仮説を複数立てること。	220
7	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：上記仮説の実現性を検討しておくこと。 事後の展開：立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。	220
8	文献の読み方 軌道修正の必要性－研究例紹介 口頭試問	口頭試問・ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：上記仮説の実現性を検討しておくこと。 事後の展開：立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。	220

<b>【科目名】</b>	精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		<b>【担当教員】</b>	的場 已知子
<b>【授業区分】</b>	共通科目	<b>【授業コード】</b>	a105	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	受講者へ個別に連絡する。
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	8コマ	(オフィスアワー) メールにて対応
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
精神医学についての一般的な基本知識を得ている(国試レベル)ものとして講義を行います。 精神医学に関する基本的な講義を受講したことのあるレベルを対象に行います。 実際の診察や面接の場面を想定して、臨床力を培えるように指導します。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
資料配付は事前に配付します。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
・基本的なメンタルヘルス上の問題に対処できるようになること。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
・主な精神疾患の患者さまに対する実践的な理論と支援についての技法を学ぶ。 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
・基本的なメンタルヘルス上の問題に対処できるようになること。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
・自ら考え、問題を見つけ、解決するための思考と行動を討論形式で実践する。 ・臨床の場面でメンタルヘルスに関する問題点を考え、解決に向けた支援を自ら構築できるようになること。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
「エキスパートに学ぶ精神科初診面接」[日本精神神経学会 精神療法委員会]¥4,950				
<b>【参考書】</b>				
精神科医が教える聴く技術[ちくま新書]高橋和巳 著 ¥880				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート提出100%で評価を行う。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	発達の過程における主な精神疾患とその対応について□ マズローの発達階層説に基づき予防的な視点も含めその対処法を考察する。	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220
2	異常と正常についてと日常化の問題病に対する姿勢と面接・支援の基本を学ぶ	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220
3	心理検査とその使い方について□ 臨床における心理検査の使い方を学ぶ	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220
4	臨床検査とその使い方について□ 臨床における検査データを読み取り対応できる	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220
5	事例A 凸児・児童に関わるもの	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220
6	事例B 思考障害について	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220
7	事例C 凸格の問題を扱う事例について	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220
8	事例D 器質疾患の関与の事例について	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	220

<b>【科目名】</b>	公衆衛生学総論		<b>【担当教員】</b>	高橋 明美
<b>【授業区分】</b>	共通科目	<b>【授業コード】</b>	a 106	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	8コマ	(オフィスアワー) 月～金：9時30分～17時
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特記なし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 特記なし				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) 公衆衛生の理念や目的、予防医学や社会医学の役割、実際について学ぶ。 また、公衆衛生の歴史の変遷を辿り、疾病予防、健康増進、健康管理、環境保健などの諸問題から健康と環境との関連について理解する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法) 公衆衛生学は、健康の保持・増進と疾病の予防を目的とした社会医学でありその領域は広い。 本講義では衛生学・公衆衛生学・疫学の理論と保健医療福祉について学習する。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 公衆衛生学の知識を身につける。 統合医療の知識を身につける。 保健医療福祉と関連する法律の知識を身につける。				
<b>【行動目標(SB0)】</b> 公衆衛生学の研究をデザインできる。 統合医療を説明できる。 保健医療福祉と関連する法律について説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> プリントを配布する。				
<b>【参考書】</b> その都度紹介していく。				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で評価を行う				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	公衆衛生学とは何か□ 公衆衛生学の課題、人口問題	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30
2	健康問題の変遷と医療の歴史 環境汚染問題	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30
3	感染症とその予防	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30
4	健康指標□ 比率(罹患率や有病率等)	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30
5	疫学研究の基礎	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30
6	研究デザイン□ 記述的な研究とコホート研究・症例対照研究	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30
7	研究デザインとEBM (evidence-based medicine) □ ランダム化比較試験・非ランダム化比較試験・自己コントロール研究とEBM	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30
8	研究紹介 まとめ	講義	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30

<b>【科目名】</b>	教育心理学(教育分野に関する理論と支援の展開)		<b>【担当教員】</b>	大矢 薫
<b>【授業区分】</b>	共通科目	<b>【授業コード】</b>	a107	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 12:40~13:30 (月~金、火除く)
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行っていただきます。 積極的な参加姿勢を期待します。 講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
この科目は公認心理師養成のための必修科目である。 教育分野に関わる公認心理師の実践を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」				
(方法)				
毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行います。 レポートに対するフィードバックは個別に対応いたしますので、担当教員へご連絡ください。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
教育分野に関わる公認心理師の実践に関する基本的な知識を身につける。				
<b>【行動目標(SBO)】</b>				
教育分野に関わる公認心理師の実践について説明できる。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
毎回、プリントや資料を配布する。				
<b>【参考書】</b>				
石隈利紀 編 『教育・学校心理学』 遠見書房 (2,600円+税) 石隈利紀 『学校心理学』 誠信書房 (3,800円+税) 服部環・外山美樹 編 『スタンダード教育心理学』 サイエンス社 (2,400円+税)				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、レポート50%、授業内でのディスカッション・ディベート50%の割合で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	教育分野に関わる公認心理師の実践 教育分野における公認心理師の役割	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
2	教育分野に関わる公認心理師の実践 アセスメント	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
3	教育分野に関わる公認心理師の実践 カウンセリング	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
4	教育分野に関わる公認心理師の実践 コンサルテーション	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
5	教育分野に関わる公認心理師の実践 いじめ	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
6	教育分野に関わる公認心理師の実践 不登校・ひきこもり	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
7	教育分野に関わる公認心理師の実践 非行	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
8	教育分野に関わる公認心理師の実践 発達障害	講義 討議	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	120分

<b>【科目名】</b>	看護教育学		<b>【担当教員】</b>	金子 史代
<b>【授業区分】</b>	共通科目	<b>【授業コード】</b>	a108	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	kaneko-f@sutoku-u.ac.jp
<b>【単位数】</b>	2	<b>【コマ数】</b>	15コマ	(オフィスアワー) 授業終了後に教室で質問を受ける
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 文献検討、ディスカッションにより内容を深めます。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的) 日本における看護教育がどのように発展してきたかを日本の看護教育の歴史的背景から理解する。 さらに、今日の看護教育の特徴を学ぶとともに、看護の専門職者に必要となる生涯学習・継続学習における教育的機能を探求し考察する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
(方法) 各時間に提示した文献を読んで考えをまとめてくる。授業内でそのレポートをもとに発表と討議をする。授業内でレポートへのコメントをします。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> 日本における看護教育の発展とその特徴を理解し、看護職者への教育的機能を果たすために必要な知識や技術を学ぶ。今日の看護の教育の現状と課題から、看護の専門職者に必要となる生涯学習・継続学習を支援する教育を展開する基礎的な知識と技術について学習を深める。				
<b>【行動目標(SB0)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の看護教育の歴史的背景から継続教育の現状と課題を説明できる。</li> <li>看護の専門職の継続教育の展開に必要な基礎的理論を説明できる。</li> <li>看護の継続教育を展開する基礎的な知識と技術を理解し、具体的な方略を考察できる。</li> </ul>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 6「看護教育学第6版」杉森みど里、舟島なおみ著、医学書院 ¥5018 2018				
<b>【参考書】</b> 「ケアリングカリキュラム」Jean Watson著、安酸史子監訳、医学書院、¥3800 「看護における人的資源活用論」2018年度版、伊部敏子 中西睦子監修、手島恵編集、日本看護協会出版会 ¥2300				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート40% 学習の準備と発言30% プレゼンテーション30%：レポートの課題は授業の前に提示します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	30			30	100
評価 指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	ガイダンス 日本の看護教育学の歴史の変遷 1 □ ・看護教育と看護教育学について学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学第6版」、第1章 看護教育学創造への道(p1-31)を読んで発表できるようにまとめる。	220
2	日本の看護教育学の歴史の変遷 2 □ ・看護教育制度について学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学第6版」、第1章 看護教育学創造への道(p1-31)を読んで発表できるようにまとめる。	220
3	日本の看護教育学制度 1 ・教育課程の構造について学ぶ。 ・カリキュラムの構成について学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学第6版」、第3章 看護学教育課程論(I p77-93)を読んで発表できるようにまとめる。	220
4	日本の看護教育学制度 2 ・カリキュラムの類型について学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学第6版」、第3章 看護学教育課程論(Ⅱ・Ⅲ p93-109)を読んで発表できるようにまとめる。	220
5	日本の看護教育学制度 3 ・教育方法と評価について学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学第6版」、第5章 看護学教育授業展開論(Ⅳ p247-258)を読んで発表できるようにまとめる。	220
6	日本の看護教育学制度 4 ・教育方法と評価について学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学第6版」、第5章 看護学教育授業展開論(Ⅳ p283-293)を読んで発表できるようにまとめる。	220
7	日本の看護教育学制度：まとめ 課題と展望 ・まとめは、教育課程・カリキュラム・教育方法と評価の視点で考え、課題と展望を考察する。	PBL 発表と討議	1-6回までの内容を復習して、発表の準備をする。	220
8	ケアリングカリキュラム 1 ・ケアリングの理解の過程を学ぶ。	PBL 発表と討議	文献提示「アクト・オブ・ケアリング」 第1章 ケアリングはどのように理解されてきたか、を読んで発表できるようにまとめる。	220

9	ケアリングカリキュラム2 ・教育的ケアリングについて学ぶ。	PBL 発表と討議	文献提示「ケアリングカリキュラム」、第1部 カリキュラム開発の新しいパラダイムの提案(第1章p4-26)を読んで、発表できるようにまとめる。	220
10	ケアリングカリキュラム3 ・教育的ケアリングについて学ぶ。	PBL 発表と討議	文献提示「ケアリングカリキュラム」、第1部 カリキュラム開発の新しいパラダイムの提案(第2章p29-52)を読んで、発表できるようにまとめる。	220
11	看護の継続教育の現状と課題1 ・専門職と生涯教育について学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学 第6版」、第7章 看護継続教育論(p329-341)を読んで、発表できるようにまとめる。	220
12	看護の継続教育の現状と課題2 ・新人看護職員の教育について学ぶ。 ・新人看護職員研修ガイドラインについて学ぶ。	PBL 発表と討議	「看護教育学 第6版」、第7章 看護継続教育論(p341-352)を読んで、発表できるようにまとめる。	220
13	看護の継続教育の現状と課題3 ・スペシャリストの教育を、認定看護師、専門看護師、特定行為研修から学ぶ。	PBL 発表と討議	文献提示「看護における人的資源活用論」、専門職業人とキャリア(p48-50、p75-87)を読んで、発表できるようにまとめる。	220
14	看護の継続教育の現状と課題4 ・ジェネラリストの教育をクリニカルラダーを通して学ぶ。	PBL 発表と討議	文献提示「看護における人的資源活用論」、人材の育成と活用(p59-74)を読んで、発表できるようにまとめる。	220
15	看護の継続教育：まとめ 課題と展望 ・まとめは、教育的ケアリング・看護の継続教育・生涯教育の視点で考え、課題と展望を考察する。	PBL 発表と討議	8回から14回までの内容を復習して、発表の準備をする。	220



【科目名】	臨床解剖学		【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a109	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特になし				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
特になし				
【講義概要】				
(目的)				
<p>上肢・下肢の局所解剖学的な構造と機能、および中枢神経系の解剖学的な構造、運動と間隔の伝導路を学習する。また、筋肉の破格について学習し、人体の多様性を認識する。これらの局所解剖学的な知識を、具体的な臨床例に応用することを学ぶ。</p> <p>学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>				
(方法)				
<p>主として、配付資料を使用して講義を行う。</p> <p>試験・レポートのフィードバック方法：講義の最後に講義全体の課題を出題する。課題は採点后、解説を加えて各自に返却する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>人体解剖学の知識を臨床の場に応用するために、局所解剖学・中枢神経解剖学について理解する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肘関節・手関節の局所解剖学を説明できる。</li> <li>2. 腕神経叢の構造を説明できる。</li> <li>3. 運動・感覚の伝導路について説明できる。</li> </ol>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>教員が準備した配布資料のみ。</p>				
【参考書】				
<p>特になし</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。</p> <p>成績評価は、講義終了後課題を出題し、この結果100%で評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	上肢の局所解剖学 (1) 肘側上顆炎	講義	肘関節を構成する骨性成分	220分
2	上肢の局所解剖学 (2) 前腕の局所解剖学	講義	前腕の筋肉について	220分
3	足根管症候群□ 足関節の靭帯と筋、足根管の構造	講義	足関節を構成する骨性成分	220分
4	脊髄の伝導路□ ブラウン・セカール症候群	講義	脊髄の解剖学	220分
5	脳幹の伝導路□ ウェーバー症候群	講義	脳幹の解剖学	220分
6	感覚の伝導路□ 伝導路の障害で起こる症状について	講義	間脳と大脳の解剖学	220分
7	破格筋について胸骨筋の解剖学	講義	胸壁の構造について	220分
8	腕神経叢□ 腕神経叢から出る神経の行く末 腕神経叢と腋窩動脈の関係	講義	腋窩の構成について	220分

【科目名】	神経解剖学		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a115	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日午後
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>授業の開始前に人体の名称や機能をあらかじめ学んでおく。特に病巣との関連を含め、神経系の解剖学的な名称及び役割が必要となってくる。 授業終了後、次の講義へのステップとしてその日の十分な復習が望まれる。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この講座を最後まで学ぶ為にできるだけ多くの解剖学書・神経学書及び神経解剖学の成書・辞書等を読み砕く必要がある。</p>				
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>日常生活活動における言語・行為・認知等の障害をきたす高次脳機能障害を理解する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p> <p>(方法)</p> <p>日常生活活動における言語・行為・認知等の障害をきたす高次脳機能障害を理解するために、頭部や脳幹の中樞神経系の機能について十分な時間を割き、より高度な科目への予備的授業を目標とする。</p>				
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>脳血管障害や頭部外傷等による神経心理学的症状を理解するために、大脳を含めた中樞神経系の機能や病態について学び将来のリハビリテーション分野での知識を高める。講義修了時には内容の50～60%の達成率を目指す。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年における失語・失行・失認について歴史的概観を説明できる。</li> <li>・個々の神経心理学症状について解剖学的病巣を述べるができる。</li> <li>・中樞神経系における灰白質と白質の機能について説明できる。</li> <li>・脳血管障害や頭部外傷及び脳腫瘍等におけるCTやMRIの基本的な見方が言えるようにする。</li> </ul>				
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特になし。授業開始時プリントを配付。</p>				
<p>【参考書】</p> <p>半田肇：「神経局在診断—その解剖、生理、臨床—」</p>				
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 試験80%、レポート20%の割合で評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経心理学の歴史(大戦前) ブローカやウェルニッケが明らかにした失語症について説明する。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
2	神経心理学の歴史(大戦後) リープマンの失行の概念やその他の著名な研究者について解説。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
3	大脳・脳幹・小脳・脊髄について□ 4つの中枢神経について理解する。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
4	大脳・脳幹・小脳・脊髄について□ 4つの中枢神経について理解する。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
5	大脳・脳幹・小脳・脊髄について□ 4つの中枢神経について理解する。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
6	前頭葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
7	前頭葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉の名称と機能について学ぶ。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
8	頭頂葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220

9	頭頂葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
10	側頭葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
11	側頭葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
12	後頭葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
13	後頭葉の機能について□ 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
14	脳神経について□ 神経系における12対の脳神経について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
15	脳神経について□ 神経系における12対の脳神経について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220

<b>【科目名】</b>	神経心理学		<b>【担当教員】</b>	道関 京子
<b>【授業区分】</b>	共通科目	<b>【授業コード】</b>	a 110	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	doseki@nur.ac.jp
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	8	(オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、火曜17～19時
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
予習とともに毎回教科書または資料の復習を必須とする。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
双方向授業のため、問題意識・課題をもって積極的な意見や疑問のやりとりを求める。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能およびその障害を常に脳全体活動を見据えて的確に把握、理解できるようにする。</li> <li>・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</li> </ul>				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回事前に資料を配布し、教科書と資料を中心に講義する。</li> <li>・課題やレポートのフィードバックは、講義内で説明する。</li> </ul>				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体としての機能系である脳活動を見据えた的確な高次脳機能の働き、およびその障害の様々な症状の意味を理解できる。</li> </ul>				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高次脳機能障害である多様な症状についてその共通する構造・機能因子を探究する観察の重要性が理解できる。</li> <li>2) 視覚・聴覚・感覚同時性統合・運動・言語・記憶等における脳機能システムおよびその障害の発現を脳ネットワークとともに解釈できる。</li> <li>3) 前頭葉と頭頂葉の連合野の役割および右半球・皮質下との関連について知り、症状理解の方法が分かる。</li> </ol>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
教科書；ルリヤ R、神経心理学の基礎-脳の働き、鹿島晴雄訳、創造出版、2019年、¥8,800（税込） 毎回、追加資料を配付する。				
<b>【参考書】</b>				
山鳥重、神経心理学入門、医学書院、1986年、¥7,040（税込） Rita Carter：Mapping the Mind. University of California Press, Revised版 2010. 《初版邦訳「脳と心の地形図」養老孟司監修、藤井留美訳、原書房、2000年、¥2,640（税込）》				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 成果発表を課する。成績は、講義中の小テスト50%、成果発表50%の割合で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50		50				100
評価指標	取り込む力・知識				25				25
	思考・推論・創造の力		25						25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢		25						25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経心理学の歴史と方法 ・脳を自己制御系として認識し、精神活動、運動と行為の機能的構造、その実現の脳の役割についての研究の歴史と方法を概括する。	講義	教科書(p2-60)と第II部章項目を読み、希望する発表担当章を決定する。	220分
2	機能、局在、症状概念の再検討1□ ・脳の局所病変と機能局在の基本原則 ・精神諸過程の系(システム)的構成	講義	・教科書(p61-83)を復習する。 ・担当章に関する文献検索を行う。	220分
3	機能、局在、症状概念の再検討2□ ・脳の三つの基本的機能単位系 ・覚醒調節, 情報受容, 活動, 相互作用	講義	・教科書(p84-124)を復習する。 ・担当章を読みまとめる。	220分
4	脳の局在系と機能分析: 後頭領域と視知覚機構 ・後頭葉第1次領域と要素的視覚機能 ・後頭葉第2次領域と視覚-認知機能	講義	・視知覚機構について復習する。 ・担当章をまとめ、発表に向け準備する。	220分
5	脳の局在系と機能分析: 側頭領域と聴知覚機構 ・側頭葉第1次領域と要素的聴覚機能 ・側頭葉第2次領域と聴覚-認知機能 ・ことばの聞き取り障害の系統的影響 ・「側頭症状」の異型	講義・討議	・聴知覚機構について復習する。 ・担当章をまとめ、発表に向け準備する。	220分
6	脳の局在系と機能分析: 感覚運動領域および前運動領域と運動の機構□ ・皮質の中心溝後部領域と運動の求心性機構 ・皮質の前運動領域と運動の遠心性機構	講義・討議	・感覚運動領域および前運動領域と運動の機構について復習する。 ・担当章発表にむけ資料を作成する。	240分
7	脳の局在系と機能分析: 前頭葉と精神活動□ ・前頭葉と活動の調節・運動と行為 ・前頭葉と記憶および知的行為の調節 ・前頭葉の機能機構と「前頭葉症候群」の異型	講義・討議	・前頭葉と精神活動について復習する。 ・次回同時性統合の予習を行う。	240分
8	脳の局在系と機能分析: 後頭、側頭、頭頂領域間の第三次領域 ・同時性統合と右半球の頭頂-後頭領域機能  ・成果発表	講義・討議	・脳の局在系と機能分析について復習する。 ・発表後の考察をする。	220分

リハビリテーション医療学専攻

<b>【科目名】</b>	リハビリテーション臨床学		<b>【担当教員】</b>	的場 已知子
<b>【授業区分】</b>	共通科目	<b>【授業コード】</b>	a111	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	受講者に直接伝えます
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	8コマ	(オフィスアワー) メールで対応します
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
心理学の基礎知識（国試レベル）を習得している人を対象に実践に活用することを前提に指導を行います。学外で授業を行うため、交通費等が発生する場合があります。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
自らの意見を持ち、積極的に学び、お互いに技術を高めあう姿勢を欠かさないこと。				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う				
(方法)				
リハビリテーション領域の患者は、心理検査のアプローチに対して抵抗を感じる方々がほとんどである。医療に必要な心理学では検査をすることを主観とするのではなく、患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得することを目的として実践指導を展開するものである。 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
・実際に応用できる基礎知識を学び、臨床に活かせる技術を身につけることができる。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
学んだ基礎知識を応用するために様々なアプローチを用い、自ら学び考え、実践できるように独自で組み立てられる能力を得ること。				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
特になし				
<b>【参考書】</b>				
『臨床心理学講義（杉浦京子）朱鷺書房，2008，¥2,800』『「聞く」ことの力，鷺田清一，（TBSブリタニカ）』『現代言語論，立川健二・山田広昭，（新曜社）』『心理査定実践ハンドブック，（創元社）』				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。80%はレポートをもって評価する。20%は課題への取り組み等				



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーションにおける臨床心理学とは、	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220
2	人間理解の方法	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220
3	臨床心理学の基礎理論	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220
4	心理学援助の方法 I	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220
5	心理学援助の方法 II	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220
6	心理学援助の方法 III	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220
7	様々な分野における連携と応用 I	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220
8	様々な分野における連携と応用 II	実践(臨床体験) ケース検討	準備: 心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後: ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	220

<b>【科目名】</b>	リスク管理学		<b>【担当教員】</b>	田中 裕
<b>【授業区分】</b>	共通科目	<b>【授業コード】</b>	a112	(メールアドレス)
<b>【開講時期】</b>	前期	<b>【選択必修】</b>	選択	tyutaka@dent.niigata-u.ac.jp
<b>【単位数】</b>	1	<b>【コマ数】</b>	8コマ	(オフィスアワー) 質問はメール又は授業後に教室にて
<b>【注意事項】</b>				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
この科目は臨床の現場で求められる基礎的医学知識と技術（リスク管理）を養う科目ですので、よく復習を行ってください				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
全ての講義に出席することが望ましい				
<b>【講義概要】</b>				
(目的)				
・近年の高齢社会では、急性循環不全・呼吸不全など、医療現場において患者の生命を脅かすような不測の緊急事態に遭遇することは決して少なくない。特に、超高齢者や摂食・嚥下障害者では経口摂取を目指して援助を行う時には、誤嚥、窒息、肺炎などのリスクを常に抱えながら進めることになる。この講義ではこれら医療現場における「患者の全身状態の把握方法とリスク管理」を学び、適切かつ安全な医療の提供を行うための知識と技術を習得するとともに、「緊急事態発生時の救急対応法」の習得を目標とする。・当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。」				
(方法)				
主として配付資料を使用して講義を行います。また講義中に講義内容に準じた実習（各種バイタルサイン測定、心肺蘇生法、等）やケースディスカッションも適宜行います。 講義終了時には課題を提示します。 課題に対する解答例は授業内で説明します。				
<b>【一般教育目標(GIO)】</b>				
臨床の現場で起こりうる医療事故の発生防止のための知識、防止対策、患者の全身状態把握方法、さらには医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような基礎的な医学的知識と技術を習得する。				
<b>【行動目標(SB0)】</b>				
1) バイタルサインとその評価方法について説明できる 2) 全身疾患とそのリスクについて説明できる 3) 救急蘇生(BLS (Basic Life Support)、ACLS (Advanced Cardiovascular Life Support))について説明できる 4) 心肺蘇生法を適切に行える 5) AEDを適切に使用できる				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b>				
授業開始時に授業プリントを配付する。				
<b>【参考書】</b>				
瀬尾憲司：これで一次救命処置はわかった AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために、医歯薬出版（3,800円＋税） BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2015準拠、株式会社シナジー（3,900円＋税）				
<b>【評価に関わる情報】</b>				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 本講義の記述式試験を実施する。試験40%、レポート40%、授業・課題への取り組み20%の割合で総合的に評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		40		20			100
評価指標	取り込む力・知識	20		20		5			45
	思考・推論・創造の力	10		10		5			25
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	10		10		5			25
	学修に取り組む姿勢					5			5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リスク管理学 総論	講義	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240
2	リスク管理学 総論2 ・バイタルサインの読み方・考え方	講義・演習	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240
3	リスク管理学 各論1-1□ ・循環器系患者のリスク管理	講義	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240
4	リスク管理学 各論1-2 ・呼吸器系疾患患者のリスク管理	講義	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240
5	リスク管理学 各論1-3 ・代謝・内分泌系疾患患者のリスク管理	講義	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240
6	リスク管理学 各論1-4 ・その他の全身疾患を有する患者のリスク管理	講義	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240
7	リスク管理学 各論2-1 1) 成人・小児・乳児の心肺蘇生法 2) AEDの使用法 3) 窒息の解除法	講義・演習	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240
8	リスク管理学 各論2-2 ・生命を脅かす緊急事態の対応 (ACLS:Advanced Cardiovascular Life Support)	講義・演習	学修した内容(配付資料)の予習・復習	240

【科目名】	職場マネジメント		【担当教員】	小野 東
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a113	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ono@innovator.or.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 講義の無い時は随時メール対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
前提知識は必要ありません。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
本講義は単なる知識の習得ではありません。どの職場もほぼ共通した課題を抱えています。職場の発展も自分の成長も職場のマネジメントや管理で改善することができます。マネジメントは、コロナリスクの影響や働き方改革などの背景もあり一段と重要になってきました。本講義ではマネジメントを基礎から学習しながら各自の職場の問題や課題を考えることで職場と皆様が成長していく力を身につけていただきます。授業中やその他の積極的な質疑等を歓迎します。				
【講義概要】				
(目的)				
職場は単に人が集まったところではなく「組織」を形成し固有の業務を遂行します。組織化により一人では不可能なことが実現でき、個人の成長も実現できます。反面、職場では多くの葛藤や悩みも生まれます。結果的に職場本来の力も発揮できず、その目的すら見失うことも起きます。職場は職場自体の成長とともに自分にとっても価値ある場であることが大切です。職場の管理やマネジメントについて体系的に学び実践することで、自身の専門性を生かしつつ職場とともに成長していくことを実現できます。専門領域を超えて深く問題を探究する姿勢を培います。				
(方法)				
全てオリジナルの配布資料を使用して講義を行います。その中では随時実例などを紹介することで理解度を高めます。最終課題に対するレポートを提出していただき、コメントを付して返却します。				
【一般教育目標(GIO)】				
医療現場あるいは企業等の職場に共通する管理やマネジメントについて学ぶことで、より良い職場とすることやより良い職業人となっただけことを目標としています。職場と個人の成長並びに諸問題解決のための管理やマネジメントの能力が獲得できます。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場と組織の特徴や個人の働く意義との関係などについて学ぶ。</li> <li>・職場におけるマネジメントとは何かを学ぶ。</li> <li>・リスクにさらされる職場のリスクマネジメントについて学ぶ。</li> <li>・職場を継続的に発展成長させるための変革、革新とは何かを学ぶ。</li> <li>・現場における「改善」について学ぶ。</li> </ul>				
【教科書・リザーブドブック】				
本講義オリジナルのパワーポイントテキストを配付します。				
【参考書】				
講義に関連したものを講義中に紹介します。また引用資料等のうち重要なものを明記しています。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。授業中の質疑応答等20%、最終課題のレポート80%の合計を満点として評価します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力			80					80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	職場とは何か： ・職場の本質と諸問題 ・職場で人が働くことの意味や意義等を学び考える ・使命と個人について考える	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	220
2	職場と組織： ・組織の多様な形態と特徴について ・組織の負うべき責任について ・組織にはなぜマネジメントが必要であるか	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	30
3	組織運営： ・管理とマネジメントの関係を知る ・管理とは目標の設定、実践とフィードバック(PDCA) ・管理の限界とマネジメントの必然性	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	30
4	組織のマネジメントとリスク： ・組織運営を脅かす諸リスクについて ・ガバナンス、内部統制やCSR等について ・組織のリスクマネジメント手法やBCP等について	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	30
5	組織の成長発展1： ・全ての組織は人同様に成長から衰退期へ移行する ・組織は使命達成のために衰退しない努力が必要 ・組織の成長のための変革(革新)の重要性	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	30
6	職場の成長発展2： ・革新のためのマネジメントとリーダーの役割 ・革新のための分析手法を学ぶ ・分析指標の意義とさまざまな指標を概観する	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	30
7	職場と人： ・労務管理と人材(財)の関係 ・人財育成とは人財マネジメント ・人財育成には評価が重要であることを学ぶ	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	30
8	職場の日常運営： ・これまでの学修を現場で生かすための考え方 ・良い職場にするための日常業務の在り方	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	30

【科目名】		教育指導法		【担当教員】	鈴木 憲雄
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a114	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	norisuzuki@nr.showa-u.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 質問は授業終了後に教室で受付ける	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
大学院修了後、教育に携わる方は、受講を望みます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
各自、ノートパソコンが持参できる場合はお持ちください。グループワークやプレゼンテーションを行うときに使用します。					
【講義概要】					
(目的)					
専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。					
(方法)					
基本講義を行った上で演習課題に取り組み、クラス全体で共有するという「講義と演習を組み合わせた授業」を展開します。演習課題については、全体への報告時に、解説をいたします。到達度確認テストについては、回収後、解答例を示すとともに解説を行います。					
【一般教育目標(GIO)】					
授業を計画し、実施し、評価するために必要となる基礎的な知識を身につける。					
【行動目標(SBO)】					
01/ 「教える」の意味を説明できる。(想起・解釈) 02/ 教授錯覚とは何か説明できる。(想起・解釈) 03/ 「一般目標」「行動目標」「教育目標の3領域」とは何か説明できる。(想起・解釈) 04/ 情意領域の行動目標をポファムの方法により作成できる。(想起・解釈) 05/ 「一般目標」「行動目標」を作成できる。(解釈) 06/ シラバスとは何か説明できる。(想起・解釈) 07/ 形成評価、総括評価とは何か説明できる。(想起・解釈) 08/ 多肢選択問題を作成できる。(解釈) 09/ ループリック評価表を作成できる。(解釈) 10/ 正答率、識別指数を算出できる。(解釈)					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書は指定いたしません。学習内容に応じて必要な資料を配付いたします。					
【参考書】					
『日本医学教育学会：医学教育マニュアル1 医学教育原理と進め方、篠原出版新社、1978』 『 』：医学教育マニュアル2 カリキュラムの作り方、篠原出版新社、1979』 『池田輝政・他：成長するティップス先生、玉川大学出版部、2001』 『齋藤喜博：授業の展開、国土社、2010』 他、授業内で紹介します。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPA制度に関する規程に従う。達成度評価については多肢選択問題(50%)、課題の作成及び発表(50%)で評価します(合計100%)。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50			50				100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				50				50
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	「教える」の意味を説明できる。教育目標の階層性 「教える」の2つの用法、教授錯覚、教育施設の目標、ポリシー、コンピテンシー	講義	配付資料に基づき、学修したキーワードの意味を確認するとともに、教育目標に該当する部分を一読し、疑問点を抽出する。	220
2	教育目標の種類 一般目標、行動目標、教育目標の3領域	講義	配付資料に基づき、学修したキーワードの意味を確認するとともに、情意領域の学習目標作成に該当する部分を一読し、疑問を抽出する。	220
3	教育目標① 情意領域の学修目標作成について実際に作成演習を行う。	グループワーク	作成している学修目標の見直し及び発表準備（個人担当部分の作成作業）	220
4	教育目標② 情意領域の学修目標作成について検討し作成したものを発表する。	発表(プレゼンテーション) 討議	配付資料に基づきシラバスに該当する内容を一読し、疑問点を抽出する。	220
5	教育目標③ シラバスに記載されるべき内容	講義	配付資料に基づき、教育評価に該当する内容を一読し、疑問を抽出する(予習)。	220
6	学習評価 形成的評価、総括評価、ルーブリック評価、ルーブリック作成演習(グループワーク)	講義 グループワーク	多肢選択問題作成演習のために使用する教科書、資料を用意する。	220
7	学習評価 客観試験、多肢選択問題作成の原則 多肢選択問題作成演習	講義 グループワーク	配付資料に基づき、正答率、識別指数に該当するところを一読し、疑問を抽出する。	220
8	学習評価 多肢選択問題の吟味 正答率、識別指 修正イーベル法	講義 グループワーク	全体を振り返り、疑問点を抽出する。	220